

第71回全国消防技術者会議の開催報告

消防研究センター

令和5年度の全国消防技術者会議は、11月16日（木）及び17日（金）の2日間にわたり、東京都三鷹市の三鷹市公会堂光のホールで開催されました。この会議は、消防防災の科学技術に関する調査研究、技術開発等の成果を発表する場として、昭和28年より毎年開催されているものです。また、第62回より、「消防防災研究講演会」を同時開催しています。

コロナ禍のなか、全国消防技術者会議は、令和2年度と令和3年度はオンラインで開催し、昨年度は、来場者に検温を行ったり、座席を一席おきとしたりするなどの感染予防対策をとりつつ、3年ぶりに対面で開催しました。今年度は、会場ホール座席数の半分程度の数を定員として参加者（聴講者）の募集を行った以外には特別な対策を講ずることをせず、コロナ禍以前のような形により対面で開催することができました。16日には、特別講演、令和5年度消防防災科学技術賞の表彰式及び受賞作品の発表を行いました。17日には、16日に続き受賞作品の発表と、消防研究センターにおける研究成果等を発表する第26回消防防災研究講演会を行いました。消防防災科学技術賞受賞作品の発表は、受賞作品26件のうち、25件（口頭発表16件、展示発表7件、展示発表を行わなかった受賞作品の動画配信のみ2件）について実施し、展示発表は16日昼休みから午後にかけて隣接する会館の多目的会議室にて行いました。2日間で全国から延べ700人を超える方々の参加がありました。

特別講演では、名古屋大学減災連携研究センターの武村雅之特任教授に、「関東大震災でなぜ東京は最大の被害を出したのか？—大火災の原因とその後—」と題してご講演をいただきました（写真1）。これは、今年が大正12年関東大震災から100年に当たる年であることから依頼したものです。関東大震災研究の第一人者で著書も多い武村先生は、ご講演のなかで、元禄関東地震、安政江戸地震、大正関東大震災のときの江戸・東京での被害や大正関東大震災後の帝都復興計画を振り返りながら、関東大震災の際に東京で甚大な被害が生じた理由を深く掘り下げられ、東京の都市計画の問題点を舌鋒鋭く指摘されました。

第26回消防防災研究講演会（写真2）では、「小規模ビルにおけるガソリン火災」をテーマとし、消防研究センターからは、「大阪市北区ビル火災の消防庁長官調査について」、「大阪市北区ビル火災に係る火災シミュレーション」、「身近な引火性液体の燃焼性状と消火」という題の3件の発表を行いました。科学警察研究所の岡本勝弘氏には、「建物内に散布したガソリンの蒸発拡散挙動予測」の題で最新の学術研究成果をご発表いただきました。東京理科大学の小林恭一教授には、「大阪市北区ビル火災を踏まえ～二方向避難の確保をどうするか～」という題のお話で、過去のビル火災の事例とこれまでに行政が講じてきた施策を振り返りながら、今後の対策に関するご提言をいただきました。消防庁予防課からは、「大阪市北区ビル火災を踏まえた今後の防火・避難対策等に関する検討会報告書」を踏まえた消防庁の対応について」の題で行政の取り組みをお話いただきました。

今回の全国消防技術者会議での特別講演、表彰式、受賞者による口頭発表及び消防防災研究講演会における口頭発表については、会場で録画した動画を、消防研究センターHPに後日掲載予定です。また、全国消防技術者会議における展示発表については、受賞者が事前に作成した発表動画（会場で展示発表を行わなかった受賞作品の動画配信のみ2件を含む）を、後日、消防研究センターHPに掲載予定です。次回の全国消防技術者会議の開催につきましては、決定次第、消防研究センターホームページ（<https://nrifd.fdma.go.jp/>）等によりご案内させていただきます。次回の全国消防技術者会議にも多くの方々のご参加をお待ちしております。



写真1 名古屋大学減災連携研究センター
武村雅之特任教授による特別講演の様子



写真2 消防防災研究講演会の様子